

## 令和5年度 沼津市中小企業振興会議（第1回） 要旨

日 時：令和5年9月29日（金）15時30分～17時

場 所：ぬましん COMPASS 3階

出席委員：10名（太田 隆之、佐藤 宗徳、長岡 善章、根上 博、石原 厚、  
近藤 眞臣、武田 守晃、堀田 ひとみ、中田 聡、田中 清仁）

### 1 議事

太田会長：

- ・ 次第に従って、議事に入る。次第の「2 （1）今年度の商工業関係予算の進捗について」、事務局から説明。

事務局：

- ・ 商業の振興については資料2の1ページのとおり。

中田委員：

- ・ ニュービジネス創出事業、販路開拓支援事業の年間の支援件数はどれくらいか。

事務局：

- ・ ニュービジネス創出事業は年間7件、販路開拓支援は年間6件を想定している。ニュービジネス創出事業は県から経営革新計画の承認を受けることが条件となる。

中田委員：

- ・ 他制度であるが、申請する際に内容が難しいと感じることがある。中小企業にとって分かりやすい制度であると利用促進につながるはず。

根上副会長：

- ・ 経営革新計画の作成は、自社だけでは難しいこともあるようなので、支援機関による支援を強化しているところである。

事務局：

- ・ 県にも経営革新計画に関する補助制度があるが、市ではそれを補填する補助制度として経営革新計画を後押ししているものの、利用状況は年間想定件数に達しないことがある。

長岡委員：

- ・ 経営革新計画の作成が難しいということで、承認を受けるまでのハードルが高く、補助制度の利用件数が増えていかないということか。

根上副会長：

- ・ 経営革新計画では事業の新規性が重要視されているため利用件数が増えにくいのではないか。

太田会長：

- ・ 他に質問がなければ、「工業の振興」について事務局から説明を。

事務局：

- ・ 工業の振興については資料2の2ページのとおり。

武田委員：

- ・ IT オフィス等進出事業補助金を活用されて進出した企業に対してどのようにサポートしているか。

事務局：

- ・ IT 企業からは人材確保とビジネスマッチングに関する相談があるので、人材確保に向けては専門学校等と連携するとともに、セミナー等を開催し地域企業とマッチングの場を提供しているところである。

石原委員：

- ・ BCP 策定の支援状況について報告させていただくと、建設業者が事業再構築補助金の加点になるということで策定の支援を受けたものである。

根上副会長：

- ・ 沼津商工会議所ではBCPに関するアンケートを実施したところ、企業数4,000社のうち50社のみの回答数であり、BCPの関心度が低い状況となっている。

堀田委員：

- ・ BCPの認知度、関心度が低いのは危機感を感じていないからなのか。

根上副課長：

- ・ 危機意識を持っていないのが理由ではないか。補助制度の加点を目的として、また親企業からの指示により対応している企業はすでにBCPを策定している。

佐藤委員：

- ・ 自社においてもBCPを策定しているが、危機意識をもって想定するというのは中々難しい。建設業ではBCP対策を行うことでISO認証を取得できるものがある。BCP策定を普及する手段として、BCP策定を入札参加資格の加点とするなど企業メリットを打ち出すといいのではないか。

長岡委員：

- ・ 静岡県中小企業家同友会の会員に対し BCP 策定支援に関する専門家派遣制度をお知らせしていく。

堀田委員：

- ・ 企業誘致に向けた首都圏プロモーション活動費として予算がないがどのようなことをしているのか。

事務局：

- ・ 県内外の展示会や個別相談会に出展し、拠点開設に向けた補助制度等を紹介するとともに、企業からの要望に応じ視察ツアー等を実施している。

長岡委員：

- ・ IT オフィス等進出事業補助を活用し進出した企業が撤退したケースはあるのか。

事務局：

- ・ 9 月 29 日時点では撤退した企業はいない。

武田委員：

- ・ 小口資金利子補給制度の利用状況を教えてほしい。

事務局：

- ・ 利用件数は前年度と比較し増えている。コロナ禍においては経済変動対策資金利子補給等の制度利用が多かったが、現在、小口資金利子補給制度の利用件数はコロナ禍以前に戻っている。

太田会長：

- ・ 他に質問がなければ、「創業者の創出・新たな産業の創出」について事務局から説明を。

事務局：

- ・ 創業者の創出・新たな産業の創出については資料 2 の 3 ページのとおり。

堀田委員：

- ・ 複業人材活用支援事業で紹介される複業人材とは、フリーランスではなく大企業等に勤めながら地域企業をサポートする人を指すのか。

事務局：

- ・ 複業人材とは他企業等に勤めながら自身のスキル等を活かして企業支援を行う人であり、委託にて経営塾等を開催するとともに、複業人材との個別相談を兼ねた壁打ちを行っている。

佐藤委員：

- ・ 複業人材はどれくらいの人数がいるのか。

武田委員：

- ・ 大手人材紹介会社調べによると、5,000人を超えるデータとなっている。

佐藤委員：

- ・ 複業人材の活用促進に当たっては、中小企業の経営課題の洗い出しを行い、その課題を解決するための手段として複業人材をマッチングしていくとよいのではないかと考えている。

近藤委員：

- ・ 産学官金連携ビジネス強化事業においても、複業人材の活用促進に向けたセミナー等を実施してきたが、中小企業の経営課題の解決の手段として複業人材活用支援事業のように推進されることは意義のあるものと考えている。

長岡委員：

- ・ 複業人材活用支援事業の経営塾に静岡県中小企業家同友会の会員による事例が紹介されたこともあり出席したが、経営課題を定義する機会となる壁打ちが行われていて、複業人材を活用するかどうかを見極めてくれるというところがよい点であった。

堀田委員：

- ・ ファルマバレープロジェクトの推進について教えてほしい。

事務局：

- ・ 公益財団法人ふじのくに医療城下町推進機構ファルマバレーセンターが中心となり、静岡県や静岡県東部12市町との協同で、医療関連産業の集積による地域産業の発展を目指して各種展示会開催や企業間のビジネスマッチングなどを実施している。

太田会長：

- ・ 次第に従って、次の議事に入る。
- ・ 「人材関連施策について」について事務局から説明を。

事務局：

- ・ 労働人材の確保と育成については資料2の4ページのとおり。

佐藤委員：

- ・ 建設業にあつては労働人材の課題はより深刻化している。自社においては、従来、市内県立高校から10人を超える就職希望者がいたが、ここ数年は1人しかいない。要因としては、学生数が少なくなっていることと、大学進学率が高くなっていることが挙げられるため、大学卒業後の新卒者の採用に切り替える必要がある。そのような状況を踏まえ、就職面接会を都内で行うことを検討してはどうか。また、奨学金返還支援制度の利用者数が少ないようであるがどのように周知しているのか。

事務局：

- ・ 奨学金返還支援制度の周知については市ホームページ、約140の学校にチラシ等の配布をしているところであるが認知度は高くない。

佐藤委員：

- ・ よい制度であるため、市と連携してPRし、学生を市内に呼び戻すような取組みとなるものにしたい。

事務局：

- ・ 奨学金を貸与している学生は5割になるとの統計がある。学生が利用しやすい制度となるよう内容見直しを含め検討したい。

長岡委員：

- ・ 求職者への支援に加え、企業側のリクルート方法見直しなどのため専門家派遣等の企業側への支援も必要ではないか。市内に就職したい企業がないということを知ることが、よくよく聞いてみると知らないということであるため、市内企業を知ってもらう取組みがいいのではないか。

根上副課長：

- ・ 11月2日、3日に開催するぬまづ未来博2023は、市内企業の認知度を高めるために開催するものである。学生が企業ブースをめぐる見学ツアー等を実施する。

中田委員：

- ・ 人材確保について零細企業も課題を抱えているため、零細企業を紹介するような場も検討してほしい。

石原委員：

- ・ 若年層は大企業に就職する傾向が高いため、女性やシニア層に対し労働参加を促すことがいいのではないか。女性の労働参加の障壁となるものは長時間勤務であるため、フレックス勤務や短時間勤務を希望する人材を採用してはどうか。新潟県長岡市ではフレックス勤務が可能な企業と求職者とのマッチングサイトを運用している。

事務局：

- ・ フレックス勤務のマッチングサイトの運用等、ニーズに合わせた支援制度にしていきたい。

長岡委員：

- ・ ラブライブファンは沼津を好きになってきているはず。沼津に住みたいと思っている人と採用したい企業とのマッチングフェアは特徴的で面白い。例えば、ラブライブの●●さんの誕生日をお祝いするパーティーが開催されるため、イベント等の開催日はフレックス勤務が可能となるなど、ラブライブファンに寄り添った人事体制を構築してはどうか。

中田委員：

- ・ ラブライブファンはコミュニティを持っているため、そのようなマッチングフェアを実施する際にはコミュニティ間との連携ができるといいのではないか。

事務局：

- ・ 次第の「その他」として、「第4期委員の募集」、「ぬまづ未来博2023」について説明。

太田会長：

- ・ 以上で、閉会とする。